

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 「倫理」「政治・経済」を総合した出題範囲から、上述の両科目の問題作成の方針を踏まえて問題作成を行う。

（倫理）

- 人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

（政治・経済）

- 現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治、経済、国際関係等の客観的な理解を基礎として、文章や資料を的確に読み解きながら、政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、各種統計など、多様な資料を用いて、様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 本問では、「友」という高校生にとって身近な問題について、高校生と先生が面談で意見交換したことをきっかけに、文献調査を進め、さらに考察を深めていくという場面を通して、倫理的課題について考察する力と教科書知識の基本的理解を問うた。場面設定については、各設問の間に会話を挟み込むことで、順番に資料を読み解きながら、理解を深めていくという時間的推移を伴うような工夫をした。

各小問について言及する。問1、友というテーマに関連して、友愛も含めた愛一般を考察した思想家について問うた設問である。問2は古典や聖典の内容について問うたものである。テーマと関連が薄い設問内容であるという指摘があった。問3は、愛に関して言及した資料の読解と、アウグスティヌスについての正確な知識を組み合わせさせて解答させる設問である。友に関する議論が少ないキリスト教関連の分野を出題するために、テーマからやや離れた内容の資料を提示せざるを得なかった。問4は、『スッタニパータ』の資料読解と仏教に関する知識を組み合わせさせて解答する問題である。友と歩むことと一人で歩むことを対比的に描き出す資料であり、内容的にも大問のテーマに直接的に関係するものであった。

第2問 我が国の倫理思想を「学び」の観点から振り返り、昨今の教育改革の渦中にある受験者諸氏に己の「学び」の意義を見つめてもらうことを目指した。

各設問は、古代～近代の各時代、および分野のバランスに配慮して出題したが、既出素材を回避した結果、叡尊のようにさほど注目されない思想家からも出題せざるを得なかった。問1は、日頃の授業では必ずしも一括整理されない神仏関係の理解を総合的・多角的に測った。イの正誤判定で迷った受験者が多い。問2は、崎門派分裂の契機となった山崎闇斎の身心理解を示す重要資料だが、出題者の工夫が足らず、その意義を十分に伝えきれていなかった点は今後の課題である。なか問Ⅱは、紙上対話という場面設定をした都合上、小問内で場面設定を重ねることが難しく、結果的に知識問題と読み取りの問題だけになってしまった。問3

は、近年の研究で再評価の兆しのある勸尊を出題した。問4は、紙上対話の趣旨を踏まえ、「実学」重視を説いた福沢諭吉の資料を読み取り、その意図にsocietyへの貢献があったことを発見することで、「学び」の意義を総括する意図を込めた。資料を読めていない受験者は、手段的な「実学」理解で④を選び誤答している。

総じて、外部評価の総評にある通り大問全体が知識問題と資料の読み取りが多く、思考力が十分には測定できていなかった点については今後の問題作成にあたっては留意したい点である。しかし、良問の練り上げに全力を尽くすことはできていたと思われる。

第3問 人間（ホモ・サピエンス）の「賢さ」とは何かというテーマで生徒が授業で学ぶ場面を想定した問題構成とした。人間の賢さをめぐる思想史の流れを概観するとともに、最終的に、自然との関わり方をめぐる、人間の賢さへの今日的な批判意識を視野に入れたものとなるように試みた。

問1は、機械論的自然観をめぐる思想を問う知識問題であるが、各思想家の中心思想を的確に捉えているかを問う選択肢にしたため、やや難易度が高いと評価された。問2は、理性をめぐるカントの基本的な知識を問う問題である。問3は、実存の思想をめぐる知識問題であるが、ハイデガーもサルトルもキルケゴールも、特徴的なキーワードで判断できる問題にした。やや簡単すぎるかと思われたが、実存の思想自体が分かりにくいものであるので、難易度はこのくらいが適当という評価であった。問4は、先生がゲーテの考え方を紹介し、そこからまた生徒がハイデガーの技術批判の思想を想起するという会話文の流れ全体を読み取る読解問題である。読解自体は容易だが会話文の流れは受験者に新鮮なものだったであろうという評価であった。

第4問 冒頭の会話文ならびに大問全体を通して、「差別はなぜ悪いのか」という論点をめぐって、差別する側に問題があるという立場と差別される側の被害に問題を見出す立場との対立を示しつつ、社会的・歴史的な文脈に目を向けることの重要性を示す方向で、各設問を配置した。各設問に解答することを通して、緩やかに考察が深まるように促しながら、最後の設問で主題全体を振り返りテーマ全体をまとめた。差別というセンシティブな主題を扱うため表現等に細心の注意を払いつつ、主題の重要性に関連する設問をできる限り配置したつもりである。この点は、評価においても、若い世代に関心をもって考えさせたい現実社会の諸課題を取り上げた出題者のねらいが推察できる、と一定の評価を頂いた。

問1は、異なる文化や民族への偏見に関連した知識問題だが、教科書レベルの学習で判断できる、との指摘通り、知識に偏ってしまった点は反省材料である。問2は細かい知識を要求しているとの指摘があった。問3は倫理の学びが現実問題と背中合わせであることの象徴として意義深い、との評価を頂いた。問4は全体のまとめとして、思考力を問うと共に、現代社会における重要な問題に対する一定のメッセージを示唆することを意図した。この点は、解答を通してテーマ全体を考えさせ、選択肢それぞれが授業でも取り上げやすい内容となっておりメッセージ性が強い、とのコメント通り、大問全体のまとめとして一定の役割を果たしたと考えている。

全体としてみれば、得点率も標準からやや高めであり、基礎・基本を重視した適切な難易度の問題であったと総括しうる。

第5問 「地域的世界的視点から考える政治」という特別講義を場面設定として、主権、権力分立、地方自治、環境、国際政治について問う問題を作成した。

問1 ジャン・ボーダンの著作を軸に、主権と国家の概念についての基本的知識を問う問題である。

- 問2 日本の地方自治体に関連する制度改革についての理解を問う問題である。
- 問3 日本の公害や環境問題に関する記述について、その正誤を問う問題である。
- 問4 グローバル化する世界においてNGOが多国間条約制定に主導的に関わっている事実について、その理解を問う問題である。
- 問5 紛争や内戦が発生する経緯や特徴を、具体的事例を基に思考する力を問う問題である。
- 問6 国連安全保障理事会における紛争解決手続きに関する知識を用いて、特定の状況下で採られる解決策について、正答を選ぶ問題である。
- 第6問 「経済学入門」のシラバスを素材に、現代経済の諸問題にアプローチするための知識や思考力・判断力・表現力等を問う問題を作成した。
- 問1 少子高齢化や正規雇用・非正規雇用に関する知識を基に、資料活用の技能を問う問題である。
- 問2 テレビ欄を題材に、1980年以降の世界・日本経済について諸事象の順序を問う問題である。
- 問3 日銀短観および基礎的知識を用いて、資料から正しい内容を読み取る問題である。
- 問4 日本・アメリカ・ドイツに関して、経済の持続的可能性に関わる諸指標の表を適切に読み取ることができるかを問う問題である。
- 問5 証券会社の業務についての基礎的な知識を問う問題である。
- 問6 経済学説に関する基礎的な知識を用いて、記述と著作の目次から人名を特定する問題である。
- 第7問 生徒たちの課題探究活動という場面を設定し、少子高齢化の進展に伴って日本が今後直面することになる諸課題の把握を、総合的に問う問題を作成した。
- 問1 マクロ経済に関する基礎的な知識を活用し、失業率とインフレ率の動向を示した資料を用いて、両変数を読み取る技能があるかを問う問題である。
- 問2 賃金システムについて説明した図を用いて、日本の賃金制度の特徴を問う問題である。
- 問3 日本の公的年金制度について、近時行われた改革についての知識を問う問題である。
- 問4 「出生率」および「夫の休日の家事・育児時間と第2子以降の出生状況」という二つの資料を用いて、日本の「出生率」の動向と「夫の休日の家事・育児時間と第2子以降の出生状況」との間にどのような相関があるかを、読み解く問題である。

3 出題に対する反響・意見についての見解

「倫理」については、高等学校教科担当教員から以下のような肯定的な意見を頂いた。「「倫理」の問題の難易度については、全体として、標準的な難易度であり、出題内容や出題の分野のバランスの面でも適切なものであった。資料の読解のみならず倫理的な知識を踏まえた資料の考察等、知識をより活用させる形での設問の工夫及び選択肢の工夫が見られた。……追試験は、本試験に比べると知識の有無や、資料の読み取りのみによって正誤を判断させるような設問がやや多かった。……共通テストの問題作成方針に基づいた作問の更なる工夫を期待したい。」というご指摘及びご要望を頂いた。

「政治・経済」分野に関する反響・意見とそれぞれについての見解は次のとおりである。

問題の場面設定については、「生徒が授業について学習の準備をする場面、日常生活の中から課題を発見し解決方法を見出そうとする場面、資料やデータ等を基に考察する場面など」を設定し、「現代社会の諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な資質・能力と態度を育てるという『政治・経済』の科目の目標に照らして適切であった」との

評価を頂いた。

問題の難易度については、「標準的な難易度の問題が多いといえ」、国連安全保障理事会に関する資料から考察させる第5問の問6など、「良問も多く、適切である」との評価を頂いた。また、「基本的な知識・理解を問う場合も、組み合わせて解答させるなど出題に工夫がみられ」との評価を頂いた。「基本的な知識・理解のみを問う問題は減少した。知識・理解とその活用のバランスとしては」、「受験者は解きやすかったのではないかと考えられる」との評価を頂いた。

各大問、設問ごとについては、以下の評価を頂いた。

第5問 「『政治の仕組み』をテーマにした政治分野の問題であり、場面設定としては、学校で大学教員による出張講義が開かれたというものである。大問の導入部分に各設問をリードする文章や図がないことで各設問における場面設定に関する説明が多くなった面もみられるが、受験者にとっては解きやすい印象になったと考えられる。しかしその一方で、授業改善へのメッセージ性は弱くなったといえる。全体としての難易度は標準である」との評価を頂いた。「授業改善へのメッセージ性は弱くなった」とのご指摘については、今後の問題作成に当たって留意したい。

設問ごとの評価については、以下のとおりである。

『主権』と『国家』の概念についての知識・理解を問う」問1、「地方制度改革についての基本的な知識・理解を問う」問2、「四つの国際紛争について、これらの国際紛争の共通点を資料から考察させる」問5は、いずれも標準的な設問であるとの評価を頂いた。

「環境問題とそれに伴う法律や判例についての知識・理解を問う」問3は、やや平易な設問であるとの評価を頂いた。

「NGO（非政府組織）が主導的な役割を果たして採択された多国間条約についての知識・理解を問う」問4、「国連安全保障理事会の決議案や各理事国の反応や意見を示した資料から採択の可能性について考察させる」問6は、いずれもやや難易度の高い設問であるとの評価を頂いた。

さらに、問6は、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる良問であるとの評価を頂いた。

第6問 「大学の『経済学入門』のシラバス」を素材にした経済分野の問題であり、シラバスにある各回の授業の「テーマやキーワードから各設問が引き出されるという構造になっている。全体としての難易度は標準である」との評価を頂いた。

設問ごとの評価については、以下のとおりである。

「正規雇用や非正規雇用などの労働問題についての知識・理解を基に表を読み取らせた上で考察させる」問1、「1980年以降の世界経済の動向についての知識・理解を問う」問2は、いずれも標準的な設問であるとの評価を頂いた。

「景気に関する業況判断指数について、表を読み取らせた上で考察させる」問3は、やや平易な設問であるとの評価を頂いた。

「日本、アメリカ、ドイツの食料自給率、国民負担率、二酸化炭素排出量の割合、公債依存度を示した表を読み取った」上で考察させる問4、「証券会社の業務についての詳細な知識・理解を問う」問5、「アダム・スミスとカール・マルクスの著作の内容についての知識・理解を問う」問6は、いずれもやや難易度の高い設問であるとの評価を頂いた。

さらに、問4は、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問であるとの評価を頂いた。

第7問 「『少子高齢化に伴う労働問題や社会保障の課題』をテーマにした政治分野と経済分野

の融合問題であり，学習活動の場面におけるスマートフォンでの会話を題材としている。スマートフォンでの会話を各設問に反映させるなどの工夫がみられ，生徒が主体的に取り組んで学習を深めていく姿を見せているなどのメッセージ性もある。全体としての難易度は標準である」との評価を頂いた。

設問ごとの評価については，以下のとおりである。

「日本の完全失業率とインフレ率との関係について，図を読み取らせた上で，読み取った内容と知識とを組み合わせさせて考察させる」問1，「日本の少子化の現状について，合計特殊出生率の推移と夫の休日の家事・育児時間に関する，二つの資料の読み取りの技能を問う」問4は，いずれも標準的な設問であるとの評価を頂いた。

「日本の雇用慣行（年功序列型賃金）に関して，勤続年数と賃金水準の関係を示す図を基に考察させる」問2は，平易な設問であるとの評価を頂いた。

「日本の年金制度について時事的な要素を含む知識・理解を問う」問3は，やや難度の高い設問であるとの評価を頂いた。

さらに，問2は，「図に説明を付けて考えやすくする」工夫がみられ，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問であるとの評価を頂いた。

4 ま と め

「倫理」分野についてのまとめは以下のとおりである。

今回は2回目の共通テストであり，問題作成部会はコロナウィルス感染予防をしながらの問題作成だったため，作題に当たり多大な困難に直面した。そのような状況下で努力して作った倫理の問題に対して頂いた肯定的評価は，今後の作題に向けて大きな力となるものである。またご指摘については，今後さらに検討を重ねていきたい。基本的な知識の確認，思考力や判断力を問うこと，高校生の学びの指針となるだけでなく高校生への明確なメッセージとなること，大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること等の課題達成にさらに取り組んでいきたい。

「政治・経済」分野についてのまとめは以下のとおりである。

「高等学校教科担当教員の意見・評価」や「教育研究団体の意見・評価」で述べられているとおり，全体としては，共通テストに求められる水準の問題が作成できたと評価している。だが，さらに良質な問題を作成するには，

- ・リード文に代わる導入部分について，高校の学習の在り方に対するメッセージ性を高めるとともに，問題との関連性を強めること。
- ・解答のための必要性や場面設定としての適切性なども考慮しつつ，問題全体の文章量を適切な範囲に収めること。
- ・知識を問う問題については，どのような知識が求められているかを受験者が把握しやすいように問題を作成すること。

などが求められている。

こうした要請に応えることは容易ではないが，それに応えられるだけの蓄積を，センター試験時代およびここ数年の大学入学共通テストの経験から積み重ねてきたはずである。今後も引き続き，こうした要請に応えつつ，より良質の問題が作成できるよう，政治・経済問題作成分科会の総力を挙げて取り組んでいきたい。